

#### 4課 あらかじめ味わった宣教（使徒11:19）

フォーラムしよう

「私は宣教的存在」

アンテオケ教会が始まる、とても重要な場面です。

私は最初から宣教的存在として造られた。

私は最初から宣教的存在として救われた。

このことをフォーラムしましょう。

神様は、ご自分のかたちとしてアダムを造り、  
造られたすべてのことをアダムに与えて言われました。

（創世記1:28）

神は彼らを祝福された。神は彼らに仰せられた。「生めよ。ふえよ。地を満たせ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地をはうすべての生き物を支配せよ。」



マルコの屋上集まって、キリスト、神の国、聖霊の満たしを祈った初代教会は  
すばらしい教会でした。

しかし、1つがたらなかったのです。

それが「宣教」です。

なぜ、聖霊に満たされ、現場を生かす、現場伝道弟子の重職者になったのかを  
エルサレムの教会の人々はわかりませんでした。

そのとき

使徒11:19-20

さて、ステパノのことから起こった迫害によって散らされた人々は、フェニキヤ、キプロス、アンテオケまでも進んで行ったが、ユダヤ人以外の者にはだれにも、みことばを語らなかった。ところが、その中にキプロス人とクレネ人が幾人かいて、アンテオケに来てからはギリシヤ人にも語りかけ、主イエスのことを宣べ伝えた。



アンテオケに行った人を通して異邦人にもみことばが宣べ伝えられました。

そして、使徒<sup>しと</sup>11:26

彼<sup>かれ</sup>に会<sup>あ</sup>って、アンテオケ<sup>つ</sup>に連<sup>き</sup>れて来<sup>き</sup>た。そして、まる一年<sup>いちねん</sup>の間<sup>あいだ</sup>、彼<sup>かれ</sup>らは教<sup>きょう</sup>会<sup>かい</sup>に集<sup>あつ</sup>まり、大<sup>おお</sup>ぜいの人<sup>ひと</sup>たち  
を教<sup>おし</sup>えた。弟<sup>で</sup>子<sup>し</sup>たちは、アンテオケ<sup>はじ</sup>で初<sup>はじ</sup>めて、キリスト<sup>しや</sup>者<sup>よ</sup>と呼ば<sup>よ</sup>ばれるようになった。

ここが、とても大<sup>たい</sup>切<sup>せつ</sup>です。

「キリスト<sup>しや</sup>者<sup>よ</sup>」と呼ば<sup>よ</sup>ばれたのはアンテオケ<sup>きょうかい</sup>教<sup>かい</sup>会<sup>かい</sup>からです。

宣<sup>せん</sup>教<sup>きょう</sup>という神<sup>かみ</sup>様<sup>さま</sup>の願<sup>ねが</sup>いをにぎ<sup>にぎ</sup>ったということ<sup>こと</sup>です。

教<sup>きょう</sup>会<sup>かい</sup>として立<sup>た</sup>てられた自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>は、宣<sup>せん</sup>教<sup>きょう</sup>的<sup>てき</sup>存<sup>そん</sup>在<sup>ざい</sup>だ<sup>い</sup>とにぎ<sup>にぎ</sup>ったのでした。

私<sup>わたし</sup>たちも、自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>の存<sup>そん</sup>在<sup>ざい</sup>は、すでに237か国<sup>こく</sup>、世<sup>せ</sup>界<sup>かい</sup>福<sup>ふ</sup>音<sup>いん</sup>化<sup>か</sup>のた<sup>た</sup>め<sup>め</sup>に選<sup>えら</sup>ばれて召<sup>め</sup>された存<sup>そん</sup>在<sup>ざい</sup>だ  
ということ<sup>こと</sup>をの<sup>の</sup>がさ<sup>が</sup>ないよう<sup>よう</sup>にしまし<sup>しま</sup>よう。

パウロ<sup>いほうじん</sup>だけ<sup>だけ</sup>が異<sup>い</sup>邦<sup>ぼう</sup>人<sup>じん</sup>や主<sup>おう</sup>たちのた<sup>た</sup>め<sup>め</sup>に選<sup>えら</sup>ばれた<sup>た</sup>のではなく、私<sup>わたし</sup>たちひとりひとり<sup>ひとり</sup>が  
いまから来<sup>く</sup>る時<sup>じ</sup>代<sup>だい</sup>を生<sup>い</sup>かす、世<sup>せ</sup>界<sup>かい</sup>を生<sup>い</sup>かす世<sup>せ</sup>界<sup>かい</sup>福<sup>ふ</sup>音<sup>いん</sup>化<sup>か</sup>の主<sup>しゅ</sup>役<sup>やく</sup>の宣<sup>せん</sup>教<sup>きょう</sup>的<sup>てき</sup>存<sup>そん</sup>在<sup>ざい</sup>だ<sup>い</sup>ということ<sup>こと</sup>を  
深<sup>ふか</sup>く黙<sup>もく</sup>想<sup>そう</sup>してフォーラムしまし<sup>しま</sup>よう。

